

平成 26 年 12 月号 ■■■原則として、年末は 12 月 28 日まで年始は 1 月 4 日から開館します■■■

図書館だより

枚方市立図書館通信第 95 号 <http://www.city.hirakata.osaka.jp/site/sub-news/tayori.html>

発行：平成 26 年 12 月 枚方市立中央図書館（毎週金曜日第 4 火曜日休館）12 月 23 日は祝日のため臨時開館します。

〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1 TEL 050-7105-8141(代) FAX 072-851-0962 写真：さだ図書館



さだ図書館風景。各分館では独自の取り組みのほか、「世界のバリアフリー絵本展」など、中央図書館での行事にも参画しています。

「世界のバリアフリー絵本展」開催 10/25~11/9

レポート

関連イベント「多言語でたのしむおはなし会」も盛況

秋の読書週間事業として、中央図書館で「世界のバリアフリー絵本展」を開催し、子ども 362 人、大人 423 人、合計 785 人が来場しました。「世界のバリアフリー絵本」とは、IBBY（国際児童図書評議会）が 2 年に一度、世界中の絵本から 60 冊を選定しているもので、JBBY（日本児童図書評議会）が展覧会を企画し、日本全国を巡回しています。手話つきの絵本、点字つきの絵本、障害そのものを描いた絵本などで、外国語であっても、絵や絵文字により誰でも楽しめるものです。日本では手に入りにくい本がほとんどですが、枚方市立図書館蔵書のものもあります。特におすすめするのは、自閉症スペクトラムの子どもたちのための図書「Point to happy（しあわせへの指さし）」、3 冊の絵本が組み合わせられた「À la rencontre（であい）」、精密な鉛筆画で綴られた小説「Wonder struck（とても不思議な物語）」などです。

「多言語でたのしむおはなし会」には子ども 136 人、大人 77 人、合計 213 人の参加がありました。朝鮮語、ノルウェー語、カタルーニャ語など 9 言語の専門家による絵本の読み聞かせとミニレクソンを行い、「また参加したい」「いろいろな外国語があるのがわかった」とアンケートが寄せられました。参加した子どもたちは絵本を通じて国際理解を深めることができたようです。（中央図書館児童サービスグループ）

12 月の図書館イベント

○氷室分室開室 20 周年記念事業

人形劇【人形劇団「あぼ」】

12 月 6 日（土曜日）

11 時～（10 時 40 分開場） 整理券不要

○0 歳、1 歳、2 歳のおはなし会

●中央図書館（職員）

12 月 10 日（水曜日） 12 月 24 日（水曜日）

10 時 30 分～0 歳児、11 時 10 分～1 歳児以上

●中央図書館（ボランティア）

12 月 4 日（木曜日） 12 月 9 日（火曜日）

12 月 17 日（水曜日） 12 月 22 日（月曜日）

11 時～

●香里ヶ丘図書館（職員とボランティア）

12 月 10 日（水曜日） 3 時～

●香里ヶ丘図書館（ボランティア）

毎月第 1・3 火曜日 11 時～

●さだ図書館（職員）

12 月 17 日（水曜日） 11 時～

●牧野図書館（職員）

12 月 17 日（水曜日） 11 時～

●藤阪分室

12 月 5 日（金曜日） 10 時 30 分～

●釈尊寺分室

12 月 12 日（金曜日） 10 時 30 分～

●東香里分室

12 月 11 日（木曜日） 11 時～

●茄子作分室

12 月 11 日（木曜日） 10 時 30 分～ 2 歳児以上

12 月 25 日（木曜日） 10 時 30 分～、0 歳・1 歳児

●香里園分室

12 月 5 日（金曜日） 10 時 30 分～

●氷室分室 毎週木曜日 11 時～

○ライブラリークリスマスコンサート

12 月 23 日（祝・火曜日） 中央図書館 1 階ホール

カフェ 14：30～、コンサート 16：00～17：00

○中学生の調べ学習コンクール

12 月 6 日（土曜日）～12 月 21 日（日曜日）

中央図書館 1 階ホール



ふれあいルーム（絵本で子育て）

■中央図書館 毎週月曜日

■香里ヶ丘図書館 第 1・3（金）第 2・4（木）

■楠葉生涯学習市民センター 第 2・4 火曜日

■菅原図書館 毎週日曜日

■さだ図書館 毎週木曜日（第 3 週は金曜日）

■牧野図書館 毎週金曜日

■津田図書館 毎週水曜日

■御殿山図書館 毎週金曜日

いずれも 10 時～12 時 30 分（楠葉のみ 9 時 30 分～

12 時）但し、図書館等の休館日には実施しません。

問合先（子育て支援室）072-841-1221 代

ちょっと【本の紹介】

『あやつられ文楽鑑賞』

三浦しをん著 双葉文庫

人形浄瑠璃・文楽は敷居が高い感じがするが、この本は「素人」目線で書かれていて、「ツッコミ」あり、「笑い」ありのエッセイである。

文楽はドラマを物語る大夫、伴奏役の三味線、視覚化する人形遣いの三業で成り立っている。

“文楽くん”に恋した著者は、文楽の楽屋を訪ね、大夫の豊竹咲大夫さん、三味線の鶴澤燕二郎さん、人形遣いの桐竹勘十郎さんに突撃インタビューを敢行。文楽の何たるか、文楽に携わる方の人となりを巧妙に語り、文楽に親しみを感じさせてくれる。

時代物の『仮名手本忠臣蔵』、世話物の『女殺油地獄』の解釈にページを割いているが、この解釈もとてもおもしろい。

また、「文楽との違いを楽しむ」ために歌舞伎を見て、文楽に関する落語を聞くなど、いろいろな角度から文楽の真髄に迫っている。

なお、文楽を題材にした著者の小説、『仏果を得ず』も世俗的で、ユーモアたっぷりなので、こちらもぜひ一読を。

（さだ図書館職員）